

肉用鶏農場のカンピロバクター汚染低減技術の確立等に関する研究

研究期間	平成 22 年度～平成 24 年度
課題番号	2203
研究実施機関	北里大学獣医学部
研究概要	<p>カンピロバクターは、日本では食中毒の発生件数が第 1 位である細菌性食中毒菌です。2009 年食品安全委員会の評価では、肉用鶏農場において汚染非汚染鶏群を区別する統一的な検査方法の開発や農場汚染率の低減につながる研究が必要などの提言がされました。</p> <p>このため、実態調査により肉用鶏農場へのカンピロバクターの侵入経路を推定特定し、侵入経路と推定特定された生産資材等について実行可能な管理方法を開発するとともに、出荷前に農場で鶏群単位での感染の有無を確認する検査法を開発するための研究を実施しました。</p>
研究成果の概要	<p>汚染鶏群の区分処理実施に有効な鶏盲腸便からのカンピロバクター・ジェジュニ/コリの遺伝子検査法(リアルタイム PCR)を用いた迅速検出法を開発しました。</p> <p>農場への侵入経路については、生鳥かごや捕鳥業者の出入りが農場間での汚染拡大の要因の一つとなり得ることが示唆されました。</p>

(注) 研究実施機関の名称は、研究終了時の名称を記載